

(公財) 広島市文化財団発掘調査報告書 第2集

広島城跡広島ビジネスタワー地点

— 広島市中区八丁堀所在 —

2016

公益財団法人広島市文化財団

は し が き

広島市中区八丁堀地区は広島城本丸跡の南東に位置し、現在は官公庁やオフィスビル、商業施設が立ち並び、日々多くの人々が行きかう広島市街地で最もにぎやかな場所の一つです。そのルーツは近世の武家屋敷地であり、広島城東辺外堀に設けられた京口門から城内に入った守りの要衝にあたります。

近年、京口門跡地の西に隣接する国土交通省太田川河川事務所旧敷地内において、同事務所新庁舎や民間ビルの建設に伴う発掘調査が実施されました。これらの調査で、膨大な量の遺物と多種多様な遺構が発見され、近世の広島の人々の暮らしぶりが明らかになりました。今回の調査範囲はこれら先行する二地点に隣接しており、近世の広島を考えるための、さらなる資料を得ることができました。

この報告書が少しでも多くの方々に活用され、市民の皆様が郷土の歴史や文化について理解を深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、ご協力いただきました関係機関、関係者の方々ならびに調査に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成 28 年（2016 年）2 月

公益財団法人広島市文化財団 文化科学部 文化財課

例 言

1. 本書は、広島市中区八丁堀における広島ビジネスタワー BCP 改修工事に伴い、平成 26 年度に実施した広島城跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、大成建設株式会社中国支店から委託を受け、公益財団法人広島市文化財団が実施した。
3. 本書の執筆は、Ⅰ～Ⅲを池本和弘が、Ⅳを荒川正己が行い、編集は池本が実施した。
4. 遺構の実測・写真撮影は玉置和弘・池本が、遺物の実測・写真撮影は荒川が、図面の製図は荒川・池本が実施した。
5. 発掘調査に係る基準点の設置は、株式会社四航コンサルタントに委託した。
6. 第 1 図は、広島市都市整備局都市計画課発行の広島市平面図を複製して使用した。
7. 第 2 図における基準点データは下記のとおりである。
基準杭 1 : $X = -177763.000$ $Y = 27185.000$
基準杭 2 : $X = -177770.300$ $Y = 27185.000$
8. 本書に掲載した挿図の方位は全て方眼北である。
9. 本書に使用した遺構の略記号は下記のとおりである。
SD : 溝状遺構 SK : 廃棄土坑
10. 土層断面図及び土器の色調は『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社発行）に拠った。
11. 本発掘調査で得られた資料は、広島市教育委員会から委託を受けて、公益財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課において保管している。

目 次

I	はじめに	1
II	位置と環境	3
III	遺構と遺物	6
IV	まとめ	13

挿 図 目 次

第 1 図	広島城跡遺跡分布図	5
第 2 図	広島城跡遺構分布図	6
第 3 図	SD1・SK1・SK2 実測図	7
第 4 図	SK3・SK4・SK5 実測図	8
第 5 図	SK6・SK7・SK8・SK9・SK10 実測図	9
第 6 図	出土遺物実測図 (1)	11
第 7 図	出土遺物実測図 (2)	12

付 表 目 次

第 1 表	出土陶磁器観察表	10
第 2 表	出土瓦観察表	10

図 版 目 次

図版 1	a 広島城跡調査区全景 (東から)	
	b SD1 (西から)	
	c SK1 断面 (北から)	
図版 2	a SK2 (南から)	
	b SK3 (西から)	
	c SK4・SK5 (南から)	
	d SK6 (東から)	
	e SK7 (西から)	
	f SK8 (南から)	
	g SK9 (東から)	
	h SK10 (北から)	
図版 3	出土遺物 (1)	
図版 4	出土遺物 (2)	

I はじめに

広島市市民局文化スポーツ部文化振興課文化財担当（以下「文化財担当」）は、平成 26 年 5 月 7 日付けで、大成建設株式会社中国支店（以下「大成建設」）から開発計画地（中区八丁堀 3 番 4 号）における埋蔵文化財の有無並びにその取り扱いについて照会を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地（広島城跡）に含まれていたため、開発に伴っては発掘調査が必要である旨を、同年 5 月 16 日付けで回答した。その後、大成建設等と当該遺跡の取り扱いについて協議を重ねたが、計画の変更は困難であるとの結論に達し、記録保存の措置を講ずることとなった。

そこで、大成建設は平成 27 年 1 月 23 日に、公益財団法人広島市文化財団（以下「文化財団」）に発掘調査の実施を依頼した。これを受け、文化財団文化科学部文化財課では、現地調査を同年 2 月 25 日から 3 月 20 日にかけて実施した。また、報告書作成については、大成建設が同年 7 月 13 日に依頼し、文化財団文化科学部文化財課が同年 7 月から平成 28 年 2 月にかけて実施した。発掘調査の関係者は以下のとおりである。

調査委託者 大成建設株式会社中国支店

調査主体 公益財団法人広島市文化財団

調査担当課 公益財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課

調査関係者 渡田春男 理事長（平成 26 年度）

堀内雅晴 理事長（平成 27 年度）

藤岡賢司 常務理事

福永 治 常務理事

浜中典明 常務理事

中田英樹 常務理事

高野和彦 文化科学部長

沼田有史 文化財課長

河村直明 文化財課主任指導主事

高下洋一 文化財課主任

調査担当者 荒川正己 文化財課主任学芸員

玉置和弘 文化財課学芸員（平成 26 年度）

池本和弘 文化財課学芸員

調査補助員（50 音順）

植木真澄 加藤恒子 古寺正次 田中実 寺田誠 土井博之 原みゆき 宮下洋昭

宮地美穂

整理作業員（50 音順）

菅原彰子 住川香代子 橋本礼子

なお，発掘調査を進めるにあたっては，大成建設株式会社中国支店，広島市市民局文化スポーツ部文化振興課文化財担当をはじめ多くの方々に多大なご配慮とご協力をいただいた。さらに陶磁器については広島市立段原中学校教諭福原茂樹氏から貴重なご助言，ご指導をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

Ⅱ 位置と環境

今回調査の広島城跡広島ビジネスタワー地点は広島市中区八丁堀に所在し、現存する広島城本丸から南東方向、現在の京口門公園付近に位置する。

調査地点に関連する代表的な絵図を年代別にまとめると①毛利氏時代の絵図として、1589～1590年『芸州広島城町割之図』¹⁾、1597年頃『知新集』所収「毛利氏時代城郭内の図」²⁾、②福島氏時代の絵図として、1613年以前の内容とされる『知新集』所収「福島氏時代城郭内の図」³⁾、③浅野氏時代の絵図には1624～1631年『寛永年間広島城下図』⁴⁾、1743～1754年『家中屋敷割図』⁵⁾、1864年頃『御家中屋敷絵図重宝記』⁶⁾、1868～1869年『家中屋敷割図』⁷⁾がある。

調査地点は、広島城の中堀と外堀に挟まれた侍屋敷のうち京口御門北西側の屋敷地の一角にあたり、各絵図に見られる名前は、①は「三浦兵庫」、②は「福島丹羽守」である。③は各絵図ごとに「大久保某」、「浅野采女」、「浅野嘉吉」、「浅野惟臈」と変化する。

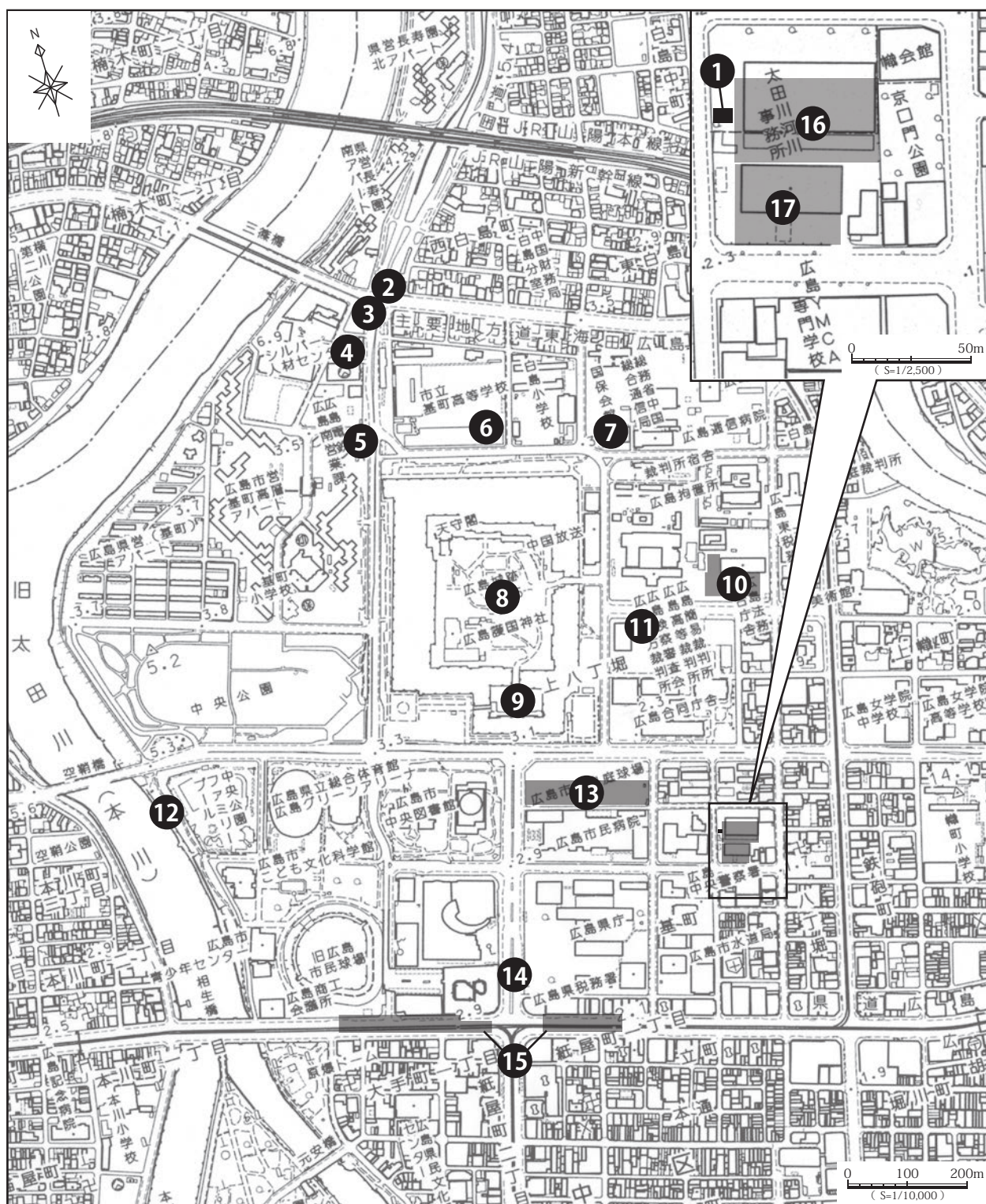
その後、城内の大部分は軍用地として使用された。調査地点も明治8年(1875)には鎮台練兵場(後の西練兵場)となる。明治10年(1877)陸軍の測量による『広島城之図』⁸⁾では、建物らしきものは描かれておらず、入り組んだ道状の表現がみられるのみである。これらのことから明治に入って比較的早い段階で調査地点は練兵場として更地になっていたものと考えられる。

この地区では平成15年(2003)から平成16年(2004)にかけて広島城跡太田川河川事務所地点⁹⁾、平成19年(2007)から平成20年(2008)にかけて同八丁堀地点¹⁰⁾の発掘調査が行われている。それぞれ本調査地点の南側と東側に位置しており、約1mの包含層の中に、概ね3面の遺構面と武家屋敷に伴う建物、柵、井戸、溝などの跡の他、多数の廃棄土坑が確認されている。このうち八丁堀地点では、18世紀後半から19世紀にかけてのどこかで、土地利用の点で大きな変化があったことが指摘されている。変化とは、南北方向に掘られた溝で仕切られた狭い空間から、柵等で仕切られた広い空間への変化である。また、今回の調査地点との位置関係から、八丁堀地点の西側約10m程度の範囲について、遺構が少なく生活の痕跡が希薄な地域であり、通路的役割を持った空間である可能性が指摘されていることは注目すべきであろう。また同様に、太田川河川事務所地点において本調査地点に近接する北西側の角に遺構が少ない点も注目される。

注

- 1) 広島城『広島城絵図集成』 2013年
- 2) 広島市立中央図書館『広島城下町絵図集成』 1990年
- 3) 2に同じ。
- 4) 1に同じ。
- 5) 2に同じ。
- 6) 2に同じ。

- 7) 2に同じ。
- 8) 坪井欣也氏所蔵
- 9) 財団法人広島市文化財団『広島城跡太田川河川事務所地点』 2006 年
- 10) 株式会社パスコ・財団法人広島市文化財団『広島城跡八丁堀地点発掘調査報告書』 2010 年



1. 本地点 2. 城北駅北(旧西白島)交差点地点(外堀跡) 3. 城北駅北(旧西白島)交差点地点(櫓跡)
4. 西白島地点 5. 基町高校前交差点地点 6. 基町高校グラウンド地点 7. 国保会館地点
8. 史跡広島城跡本丸 9. 史跡広島城跡二の丸 10. 法務総合庁舎地点 11. 司法書士会館新築地点
12. 外郭櫓台跡 13. 中央庭球場地点 14. 県庁前地点 15. 紙屋町・大手町地点 16. 八丁堀地点
17. 太田川河川事務所地点

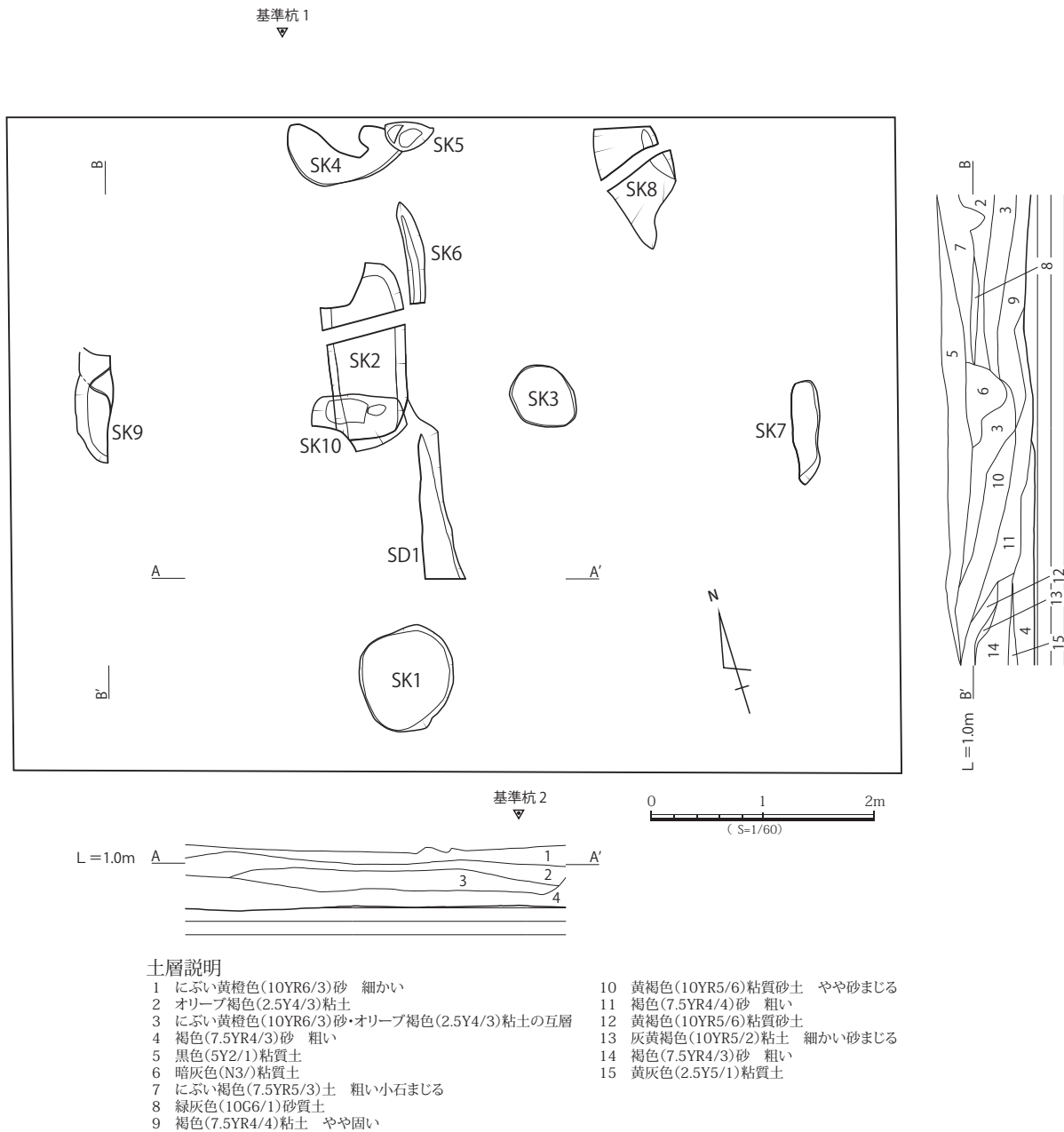
第1図 広島城跡遺跡分布図 (S=1/10,000)

Ⅲ 遺構と遺物

1 調査の概要

本遺跡は広島城の惣構の南東部分、京口門から城内へ入った場所に位置し、調査範囲は東西8m、南北6m、約48㎡である。

調査にあたっては、広島城跡太田川河川事務所地点・同八丁堀地点の調査事例、また同工事に伴う工事立会でのデータを基に、まず重機で近代以降の整地層である暗黒褐色の攪乱土を約1m剥ぎ、さらに人力で取り除いたところGL-1.4m付近で黄褐色の砂層を検出した。この層は周辺の調査成



第2図 広島城跡遺構分布図 (S=1/60)

果から自然堆積層と判断したため、その上面を遺構検出面として精査を行った。その結果、土坑等の遺構を確認した。

遺構は廃棄土坑、溝状遺構を確認した。遺物は陶磁器・瓦などが出土した。なお、すべての遺構は遺物が少ないため、時期は明確ではなく、性格も不明である。

2 遺構と遺物

(1) 遺構

○ SD1 (第3図)

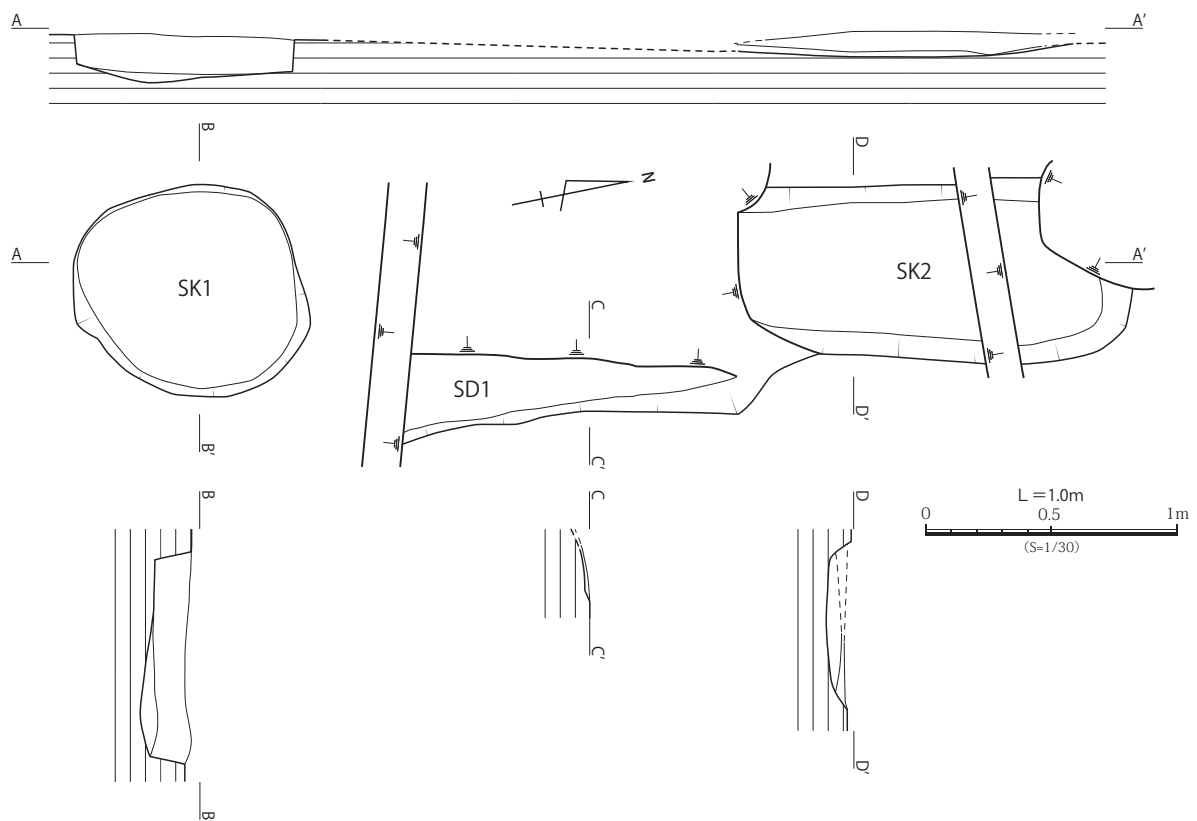
本遺構は調査区の中央部に位置する。本遺構からはレンガ2点が出土した。

○ SK1 (第3図)

本土坑は調査区の南部に位置する。本土坑からは磁器3点、レンガ1点が出土した。

○ SK2 (第3図)

本土坑は調査区の中央部に位置する。本土坑からは磁器1点、瓦4点、鉄製品1点、貝殻6点が出土した。



第3図 SD1・SK1・SK2 実測図 (S=1/30)

○ SK3 (第4図)

本土坑は調査区の中央部に位置する。本土坑からは瓦3点のみが出土した。

○ SK4 (第4図)

本土坑は東側でSK5と切り合っており、切り合い関係から本土坑が先行する。本土坑からは磁器1点、陶器5点、瓦6点、土管が出土した。陶器には肥前系と思われる皿や備前の徳利がある。

○ SK5 (第4図)

本土坑は西側でSK4と切り合っており、切り合い関係から本土坑が新しい。本土坑からは土師質土器1点、瓦2点が出土した。

○ SK6 (第5図)

本土坑は調査区の北部に位置する。本土坑からは鉄製品2点のみが出土した。

○ SK7 (第5図)

本土坑は調査区の東側に位置する。本土坑からは磁器2点、陶器3点、土師質土器6点、瓦21点、鉄製品1点、銅線、土管が出土した。陶器には唐津と思われる皿や肥前系と思われる碗2点、播鉢がある。

○ SK8 (第5図)

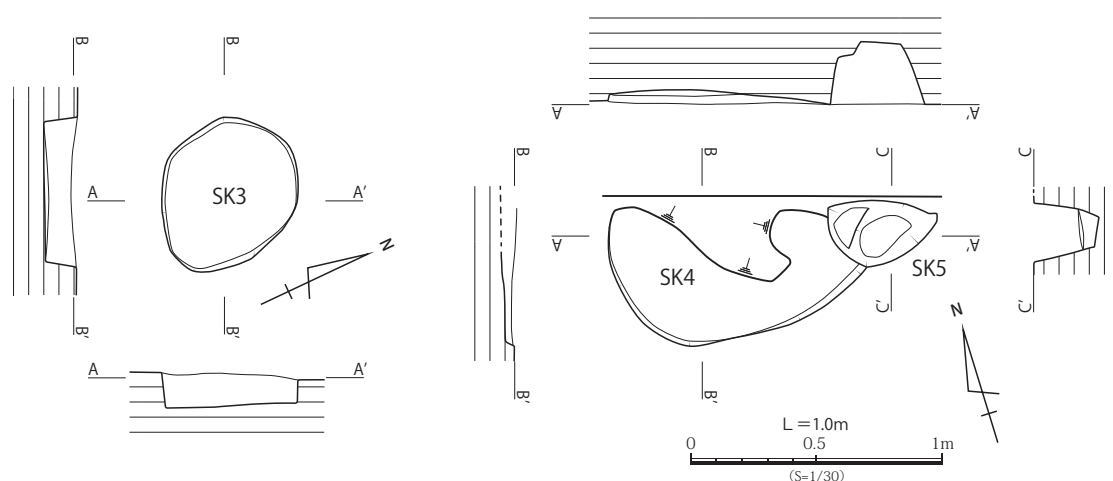
本土坑は調査区の北東部に位置する。本土坑からは磁器1点のみが出土した。

○ SK9 (第5図)

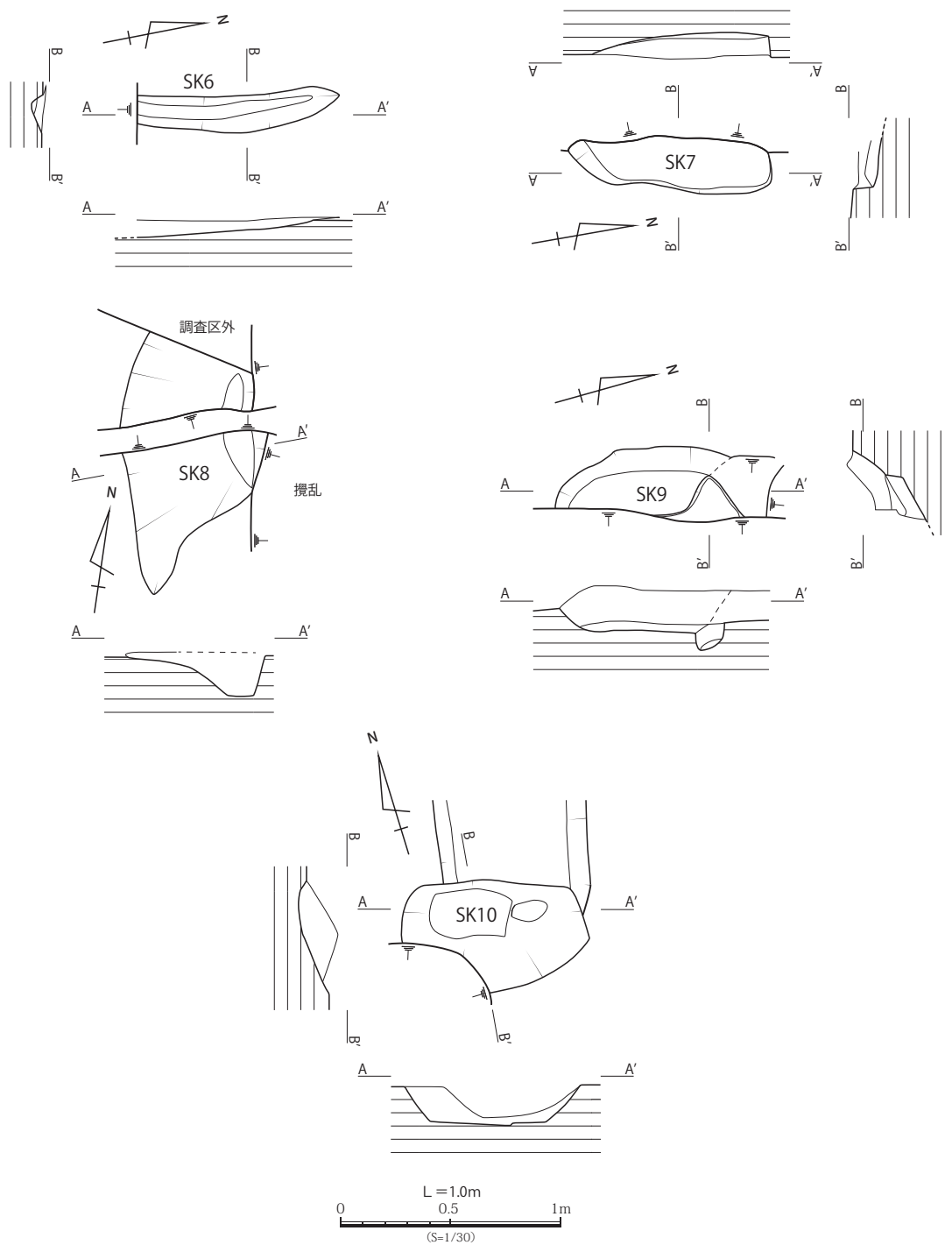
本土坑は調査区の西部に位置する。本土坑からは瓦5点、レンガ3点が出土した。

○ SK10 (第5図)

本土坑は調査区の中央部に位置する。本土坑からは瓦3点、鉄製品2点が出土した。



第4図 SK3・SK4・SK5 実測図 (S=1/30)



第 5 図 SK6・SK7・SK8・SK9・SK10 実測図 (S=1/30)

(2) 遺物

当地点からは陶磁器片，瓦片が出土した。

第1表 出土陶磁器観察表

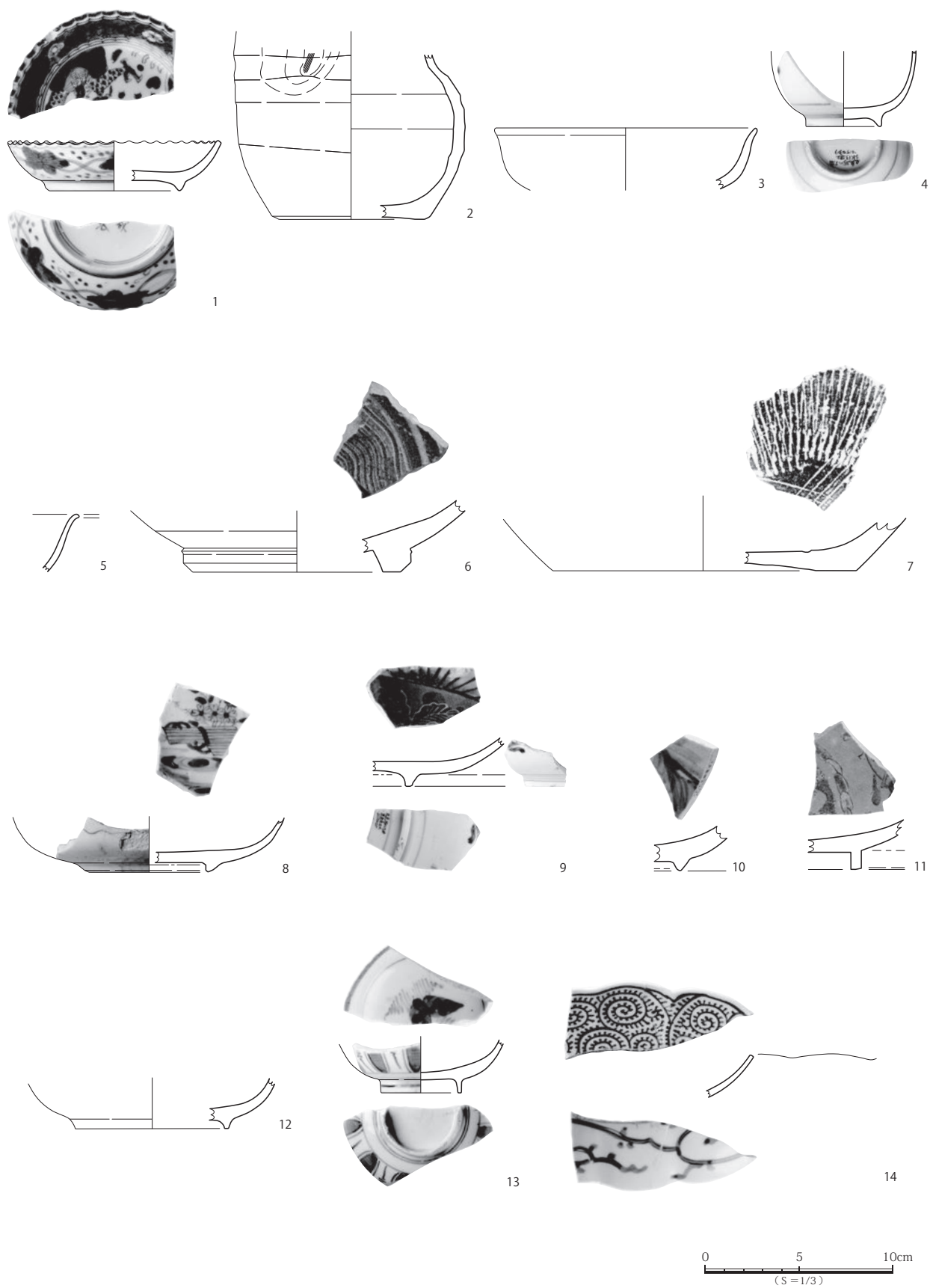
(一は不明)

番号	出土位置	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	紋様	特徴	推定産地
1	SK4	染付	皿	11.4	2.6	6.8	内面：龍 高台内：成・製 (大明成化製の一部)	口縁口紅	肥前系
2	SK4	備前	へそ徳利	—	—	8.4		胴部に3ヶ所のへこみ、 内面に施釉薬 平底の 中央がわずかに浮く	備前
3	SK7	青磁	碗	14.0	—	—			肥前系か
4	SK7	染付	碗	—	—	4.0			肥前系
5	SK7	陶器	碗	—	—	—		全面に貫入	関西系か
6	SK7	陶器	大皿 / 鉢?	—	—	11.0	内面：波状刷毛目		唐津
7	SK7	炆器	すり鉢	—	—	16.0		擦り目は7条1組。見 込みの擦り目は三角形 状。 底部と体部の変換点付 近に長方形の焼台痕跡。	堺
8	攪乱層	染付	皿	—	—	6.2			肥前
9	攪乱層	染付	皿	—	—	—		墨はじき	肥前
10	攪乱層		皿	—	—	11.0			波佐見
11	攪乱層	陶器	皿	—	—	12.2	鉄釉で下絵、透明釉 で焼成。緑系の釉薬 で絵付け後再焼成		関西系か
12	攪乱層	青磁	鉢	—	—	7.6			肥前系か
13	攪乱層	染付	碗	—	—	4.2			肥前系
14	攪乱層	染付	皿	—	—	—	たこ唐草	口縁形打 焼き継ぎ痕 跡有	関西系か

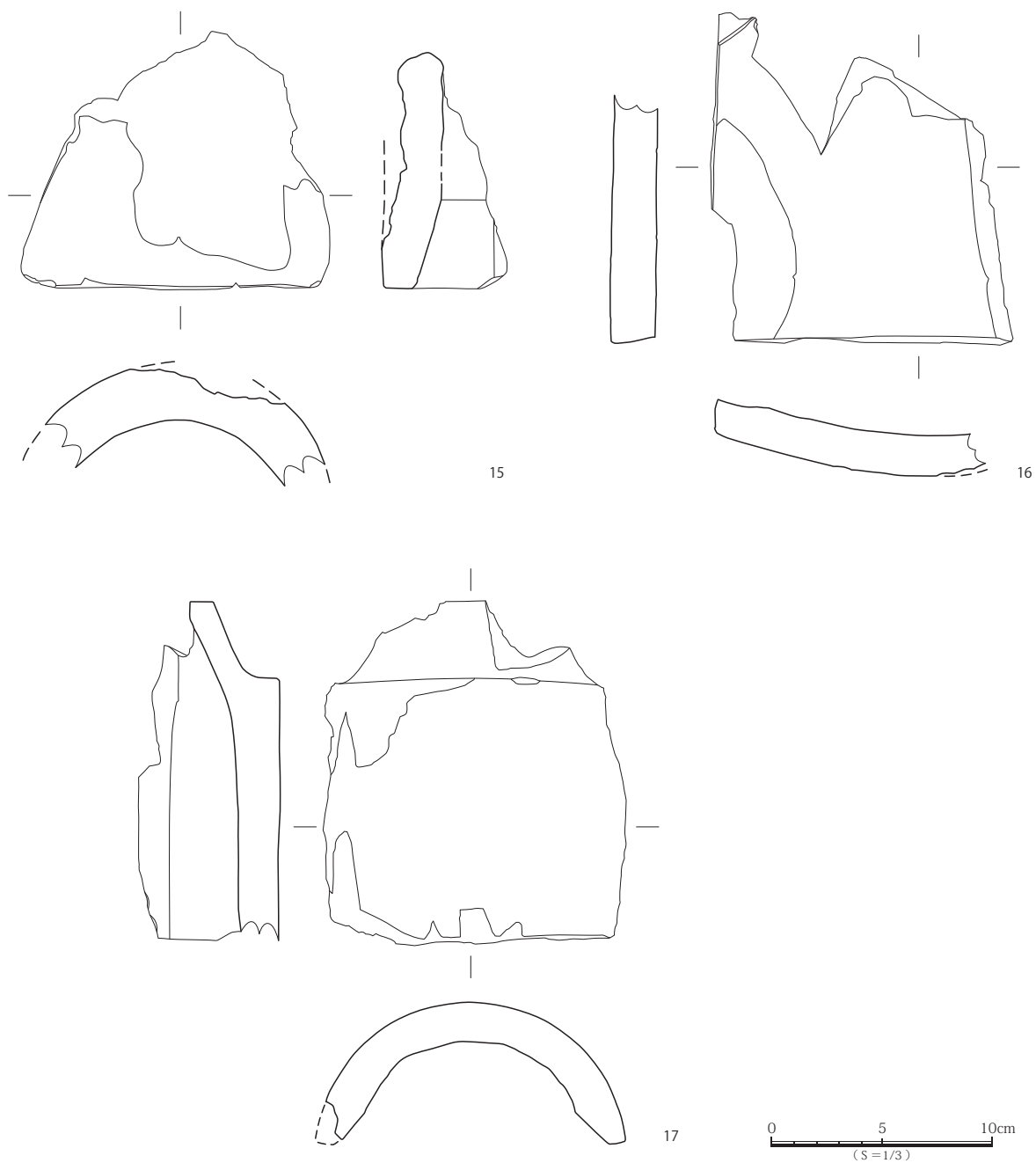
第2表 出土瓦観察表

(一は不明, / は該当部位無し)

番号	出土位置	種類	計測数値 (cm)					調整	備考
			長さ	幅	厚さ	谷深さ / 高さ	玉縁長		
15	SK3	丸瓦	—	—	2.6	—	—	凸面 ナデ 凹面 コビキ B ナデ	
16	SK7	平瓦	—	—	2.1	—	/	凹面 ケズリ後ナデ 凸面 ナデ	
17	SK7	丸瓦	—	—	1.9	6.5	3.5	凸面 ナデ 凹面 コビキ B 布目 ナデ	



第 6 図 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)



第 7 図 出土遺物実測図 (2) (S=1/3)

IV まとめ

当地点では、土坑 10 基、溝状遺構 1 基を確認した。遺構を確認したのは、概ね標高 1 m 前後の黄褐色砂層の上面で、基本的にこれより下は自然堆積層である。遺構確認面より上層は現代の攪乱層であったことから、層位的な新旧は不明であり、各遺構から出土した遺物の数も少ないことから、時期を特定するにはいたらなかった。また性格も不明である。

ところで、太田川・八丁堀両地点では、幕末期の遺構検出面の標高は 1.5 m 前後、一方築城期前後と考えられる自然堆積層上面は標高 1 m 前後でそれぞれ確認され、その間に近世の複数の遺構面と遺物包含層が存在していた。¹⁾ これらを基に当地点における遺構検出面を見れば、概ね太田川・八丁堀両地点の自然堆積層上面に相当する可能性が高い。近世の大半の遺構面及び包含層は削平されたものと考えられるが、換言すれば比較的古い時期に関しては、本来の状況を一定程度反映している可能性がある。

次に、確認された遺構数及び密度を太田川・八丁堀両地点と比べれば、一見して当地点が著しく低い。後世の削平の影響は無視し得ないが、一方で、八丁堀地点の南西隅部は「一貫して遺構が少なく生活感が希薄な地域であり～中略～通路的役割を持った空間である可能性」が指摘されている。²⁾ 同様に太田川地点でも、遺構配置図によれば北西隅部の遺構分布密度が低いことが見て取れる。

また、太田川・八丁堀両地点の遺構群、特に溝状遺構や柱穴列の軸線は、概ね N15°E（もしくは N75°W）前後を示しており、一定の基準の存在を示している。一方当地点では、遺構数が少なく明確ではないものの、SK6 や SD1 の長軸方向や、調査範囲のほぼ中央に分布する SK1~SK6, SK10, SD1 の位置関係を見れば、やはり概ね N15°E が意識されていた可能性がうかがえる。

以上を総合すれば、当地点の遺構群は、太田川・八丁堀両地点と共通する広島城内の土地利用に関する規則性の存在を補強するものと見ることができよう。

注

1) 財団法人広島市文化財団『広島城跡太田川河川事務所地点』 2006 年

株式会社パスコ・財団法人広島市文化財団『広島城跡八丁堀地点発掘調査報告書』 2010 年

2) 1 に同じ。

圖 版

図版 1



a 広島城跡調査区全景（東から）



b SD1（西から）



c SK1 断面（北から）



a SK2 (南から)



b SK3 (西から)



c SK4・SK5 (南から)



d SK6 (東から)



e SK7 (西から)



f SK8 (南から)



g SK9 (東から)



h SK10 (北から)

図版 3



出土遺物 (1)



報 告 書 抄 録

ふりがな	ひろしまじょうあとひろしまびじねすたわーちてん　ーひろしましなかくはっちょうぼりしょざいー							
書　名	広島城跡広島ビジネスタワー地点　ー広島市中区八丁堀所在ー							
副 書 名								
シリーズ名	公益財団法人広島市文化財団発掘調査報告書							
シリーズ番号	第 2 集							
編著者名	荒川正己　池本和弘							
編集機関	公益財団法人広島市文化財団　文化科学部　文化財課							
所　在　地	〒 732-0052　広島県広島市東区光町二丁目 15 番 36 号							
発行年月日	西暦 2016 年 2 月 29 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ひろしまじょうあとひろしま び　じ 広島 城 跡広島ビジ ね　す　た　わ　ー　ちてん ネスタワー地点	ひろ　しま　けん　ひろ　しま 広島県広島 し　な　く　は　っ　ち　ょう 市中区八丁 ぼり 堀 3-4	34101	—	34° 23′ 49″	132° 27′ 44″	20150225 ～ 20150320	50 m ²	広島ビジネス タ　ワ　ー　BCP 改　修 工事に伴う埋蔵 文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特　記　事　項	
広島城跡広島ビジ ネスタワー地点	城館跡	近世	溝状遺構 1 基、廃棄土坑 10 基			陶磁器、瓦		
要約								
現存する史跡広島城跡本丸から南東方向、現在の京口門公園付近に位置し、外堀京口御門に近接する遺跡の調査。 溝状遺構 1 基、廃棄土坑 10 基を検出した。								

(公財) 広島市文化財団発掘調査報告書 第 2 集

広島城跡広島ビジネスタワー地点

ー広島市中区八丁堀所在ー

2016 年 2 月

編集発行 公益財団法人広島市文化財団 文化科学部 文化財課
〒 732-0052 広島市東区光町二丁目 15 番 36 号
TEL 082-568-6511

印 刷 大村印刷株式会社
〒 730-0851 広島市中区榎町 2 番 15 号
TEL 082-503-1221